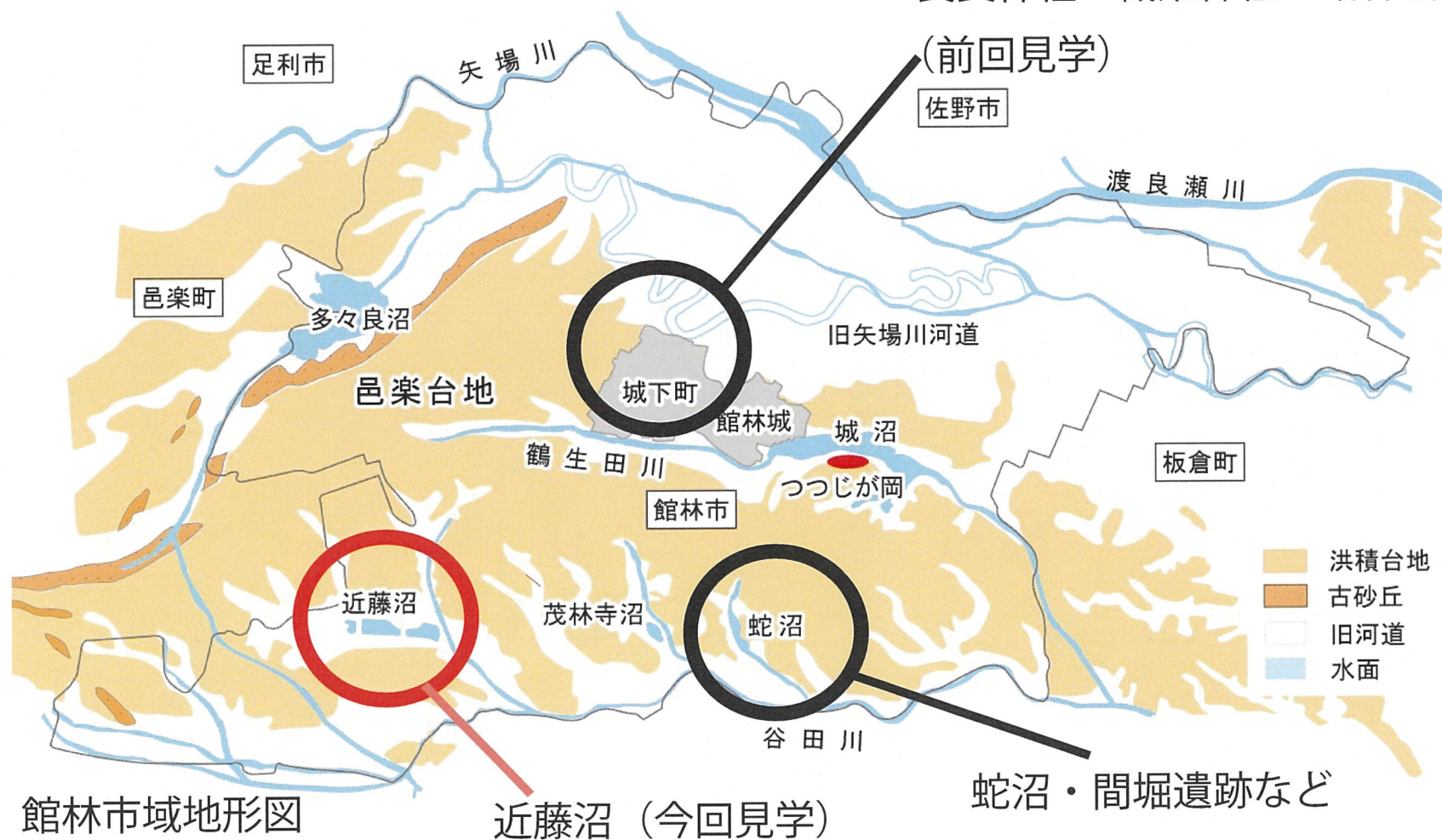


中部公民館歴史散策講座（令和3年12月7日）

近藤沼（ホリアゲタ）散策資料

長良神社・織姫神社・館林城土塁





SATO-NUMA

日本遺産「里沼」

令和3年度構成文化財追加認定

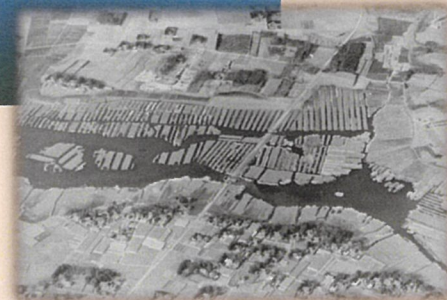


④^{こん どう ぬま}近藤沼(ホリアゲタ)

〔未指定(名勝地)〕



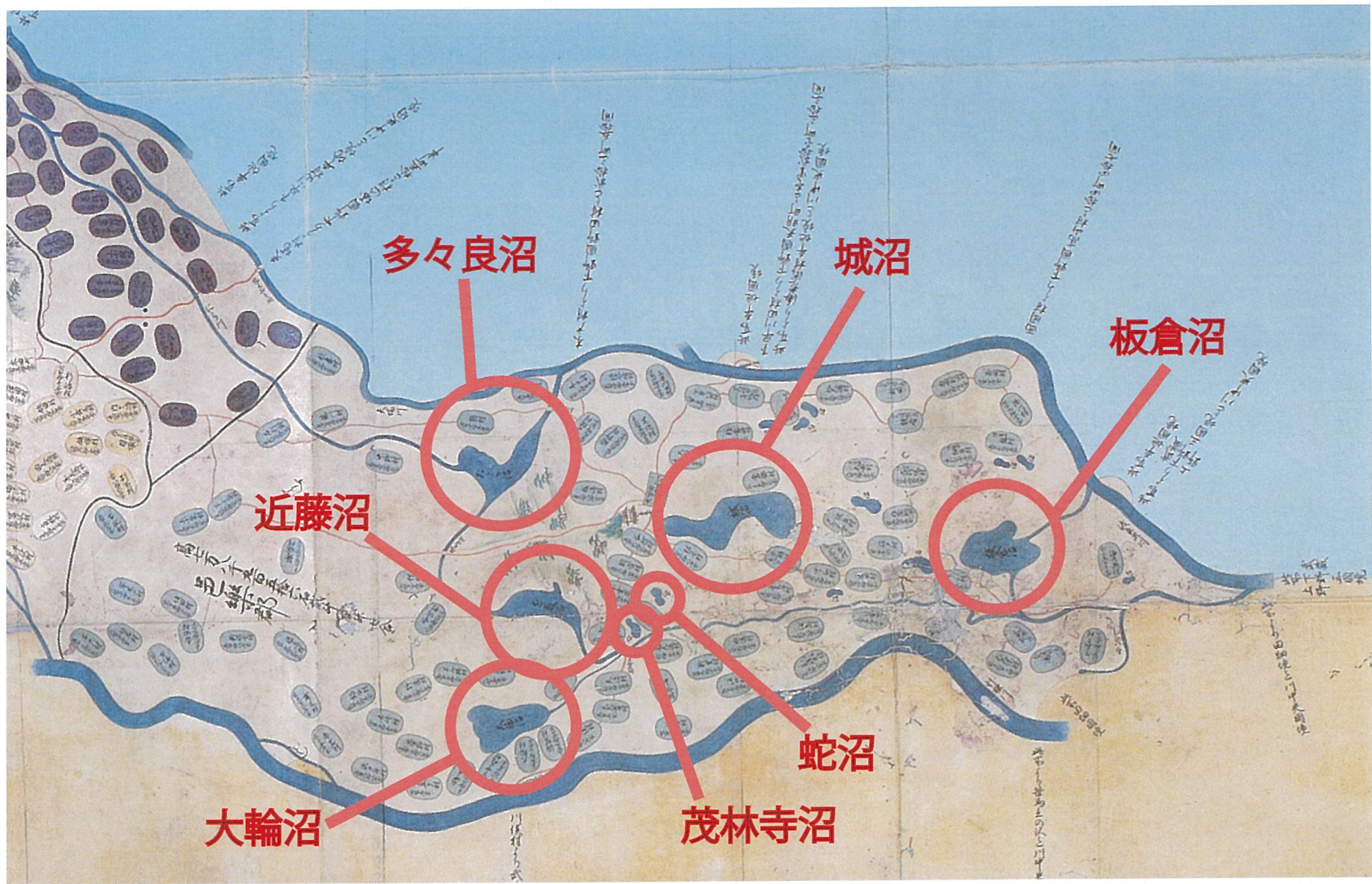
近藤沼



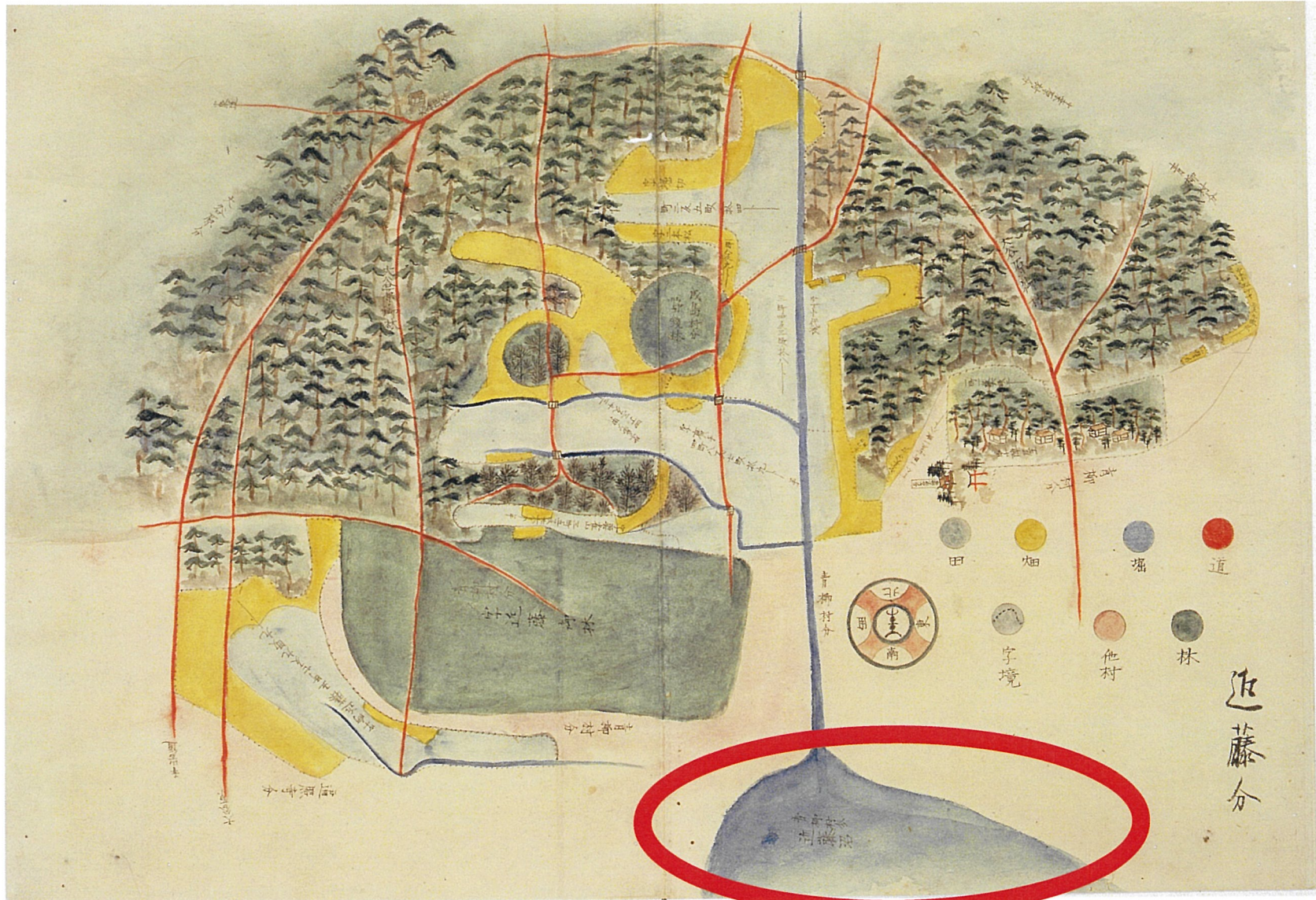
ホリアゲタ(昭和46年頃の近藤沼)

館林市の南西部にある周囲約2.5kmの沼で、明治時代に造成された櫛の歯状の水田と水路が存在した。沼底の土を掘り上げて造ったことから「ホリアゲタ」(別名キロコボリ)と呼ばれ、多々良沼同様「実りの沼」として暮らしを支えてきた。沼辺に建つ「吉田丑五郎翁之碑」がその歴史を伝え、周辺の農地に名残の水路を見ることができる。

実



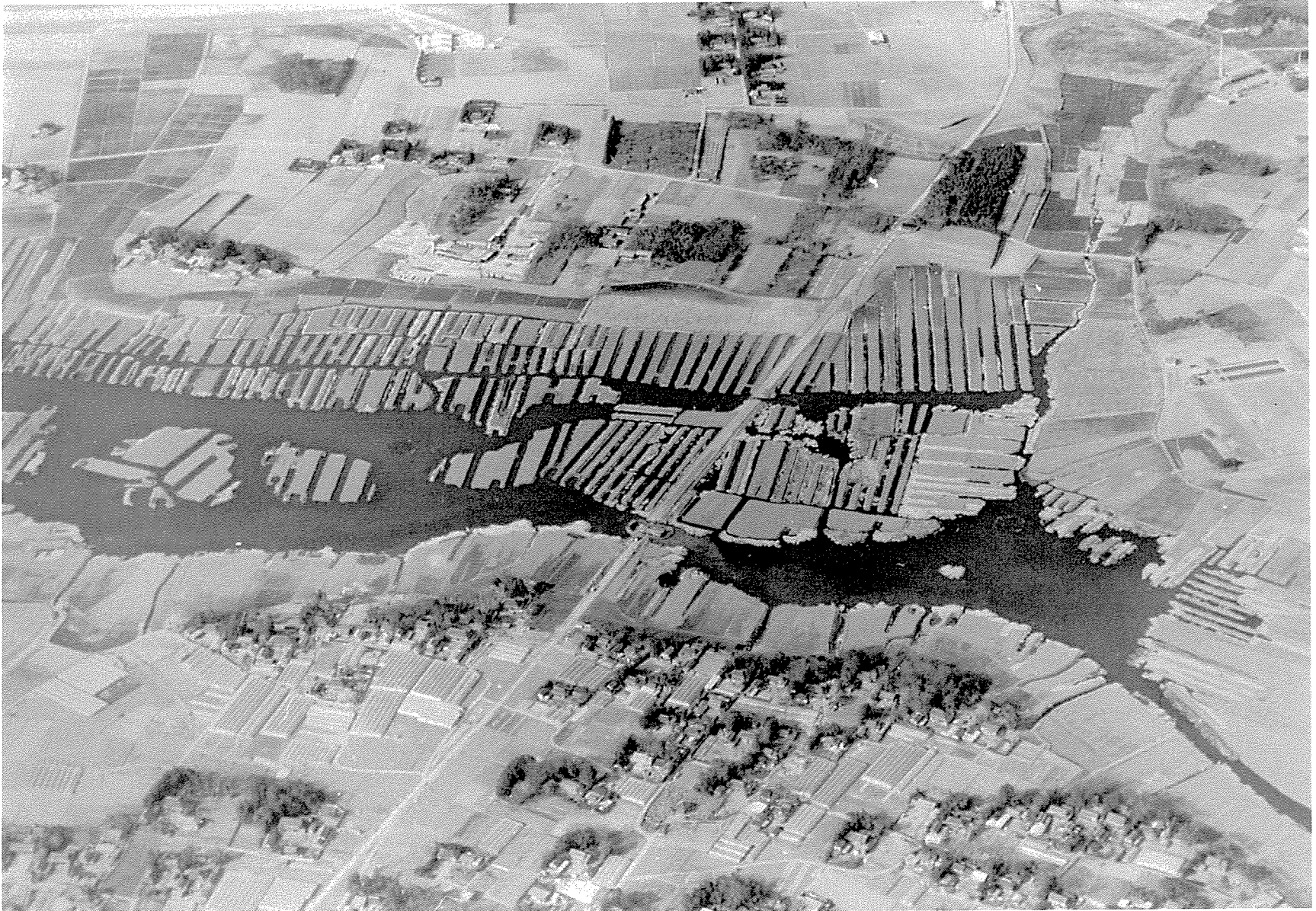
元禄 15 年 (1702) 「元禄上野国絵図」 (邑楽郡部分) にみえる邑楽郡の主な沼



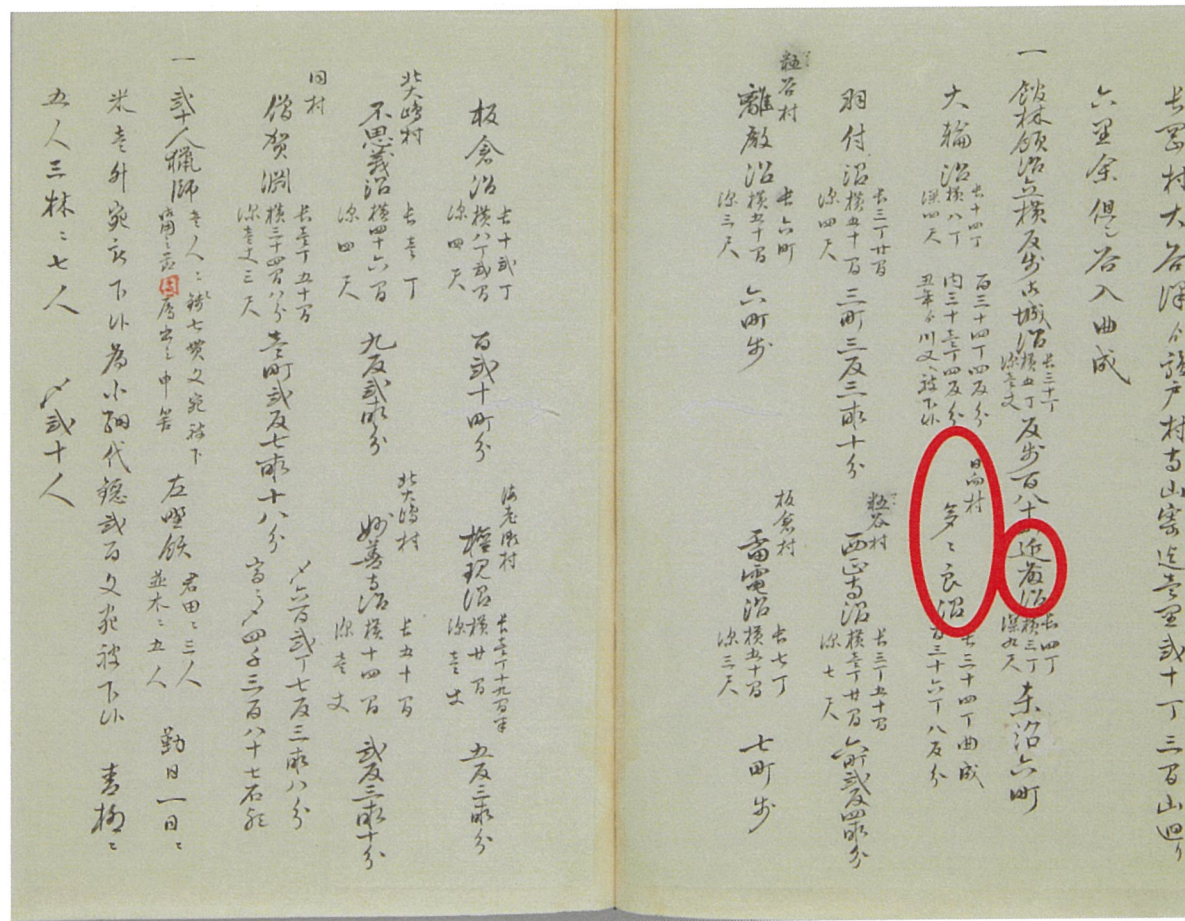
嘉永6年（1853）ごろ 「封内経界図誌」 近藤分に描かれた近藤沼（北側）⁴



嘉永6年（1853）ごろ 「封内経界図誌」 下三林村に描かれた近藤沼（南側）



昭和 40 年代ごろの近藤沼 ホリアゲタが多く確認できる



(参考)

徳川綱吉時代(1661～80)にまとめられた「右馬頭様(徳川綱吉)御領分中諸用集」という資料には、館林市域の沼で近藤沼と多々良沼にだけ沼の利用に課税があることが書かれている。この頃には、近藤沼と多々良沼はまとまった「実り」が得られることが為政者に認知され、藩の制度の中に置かれていた。

講座の行程

館林第三配水場

駐車場（集合場所）

近藤沼北側駐車場（集合）



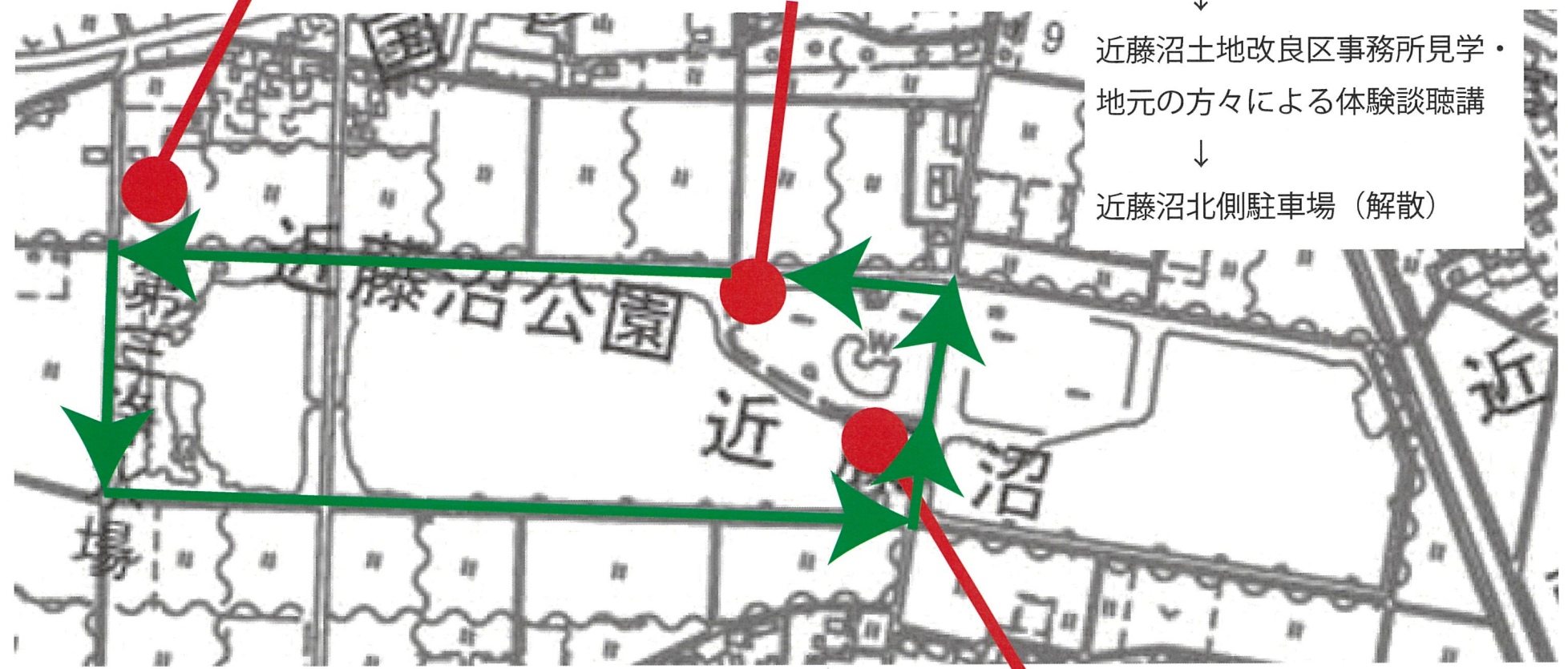
西まわりで近藤沼を半周



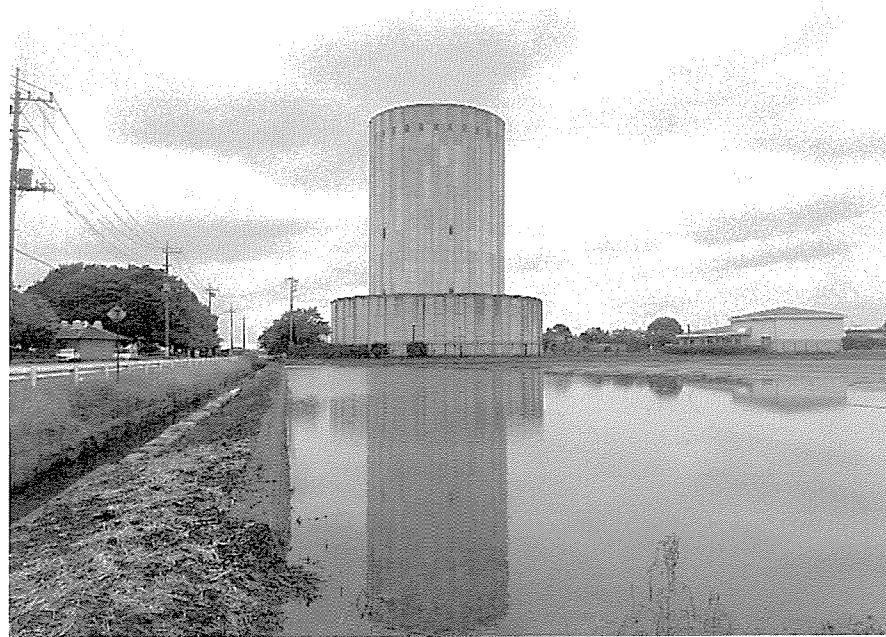
近藤沼土地改良区事務所見学・
地元の方々による体験談聴講



近藤沼北側駐車場（解散）



土地改良区事務所



館林第三配水場

館林第三配水場は、東部浄水場からの受水施設として、平成7年度から平成10年度にかけて建設された。館林第三配水場では、受水した水を配水ポンプ2台で高さ46メートルの配水塔にポンプアップした後、自然流下により給水を行っている。近隣農業用ではなく、水道用施設である。

東部浄水場は千代田町にあり、利根川から取水して消毒・ろ過した水を館林市や邑楽郡、太田市に送っている。その送り先の一つがこの第三配水場である。また、第三配水場の運転管理は、館林市細内町の第二浄水場が遠隔で行っている。



吉田丑五郎翁碑

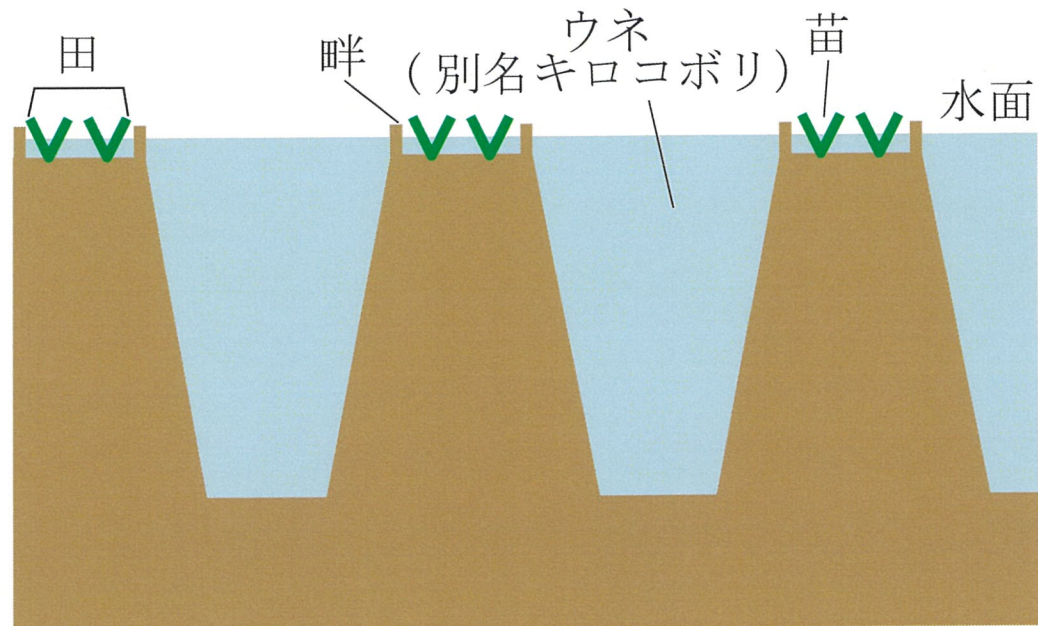
ホリアゲタの造成に尽力したのが、下三林村の村民吉田丑五郎（1839～1901）である。丑五郎は明治22年（1889）と明治30年（1897）に近隣の村と協力して近藤沼の開墾を行った。丑五郎は公共心が深く、産業発展と庶民幸福を願い、荒廃していた近藤沼に私財を投じて開発し、その生涯を捧げた。このとき造成されたのがホリアゲタである。戦中・戦後直後の食糧難の時代には、この地域の食糧供給源として大きな支えになった。丑五郎の活躍を後世に伝えるため、丑五郎のかつての協力者や親族らにより、昭和30年（1955）に吉田丑五郎翁碑が建てられた。この碑は現在、近藤沼土地改良区敷地内にある。



近藤沼土地改良区竣工記念碑

昭和46年(1971)、近藤沼の中央を南北に通る農免道路が完成した。これを機に、新しい時代の農業経営に対応できる基盤整備を必要とする声があがり、地盤造成・圃場整備・用排水分離・乾田化を目指す開発が計画された。埋め立て・整地の採土地は沼部とし、灌漑は用水源を近藤沼として、揚水機場の設置と用水域全てのパイプライン化が図られた。

昭和50年(1975)に着工し、7か年をかけて、県営の特殊圃場整備事業として開発が実行された。完成を記念して、昭和63年(1988)には近藤沼土地改良区竣工記念碑が県により設置された。整備された揚水設備は新たに設けられた近藤沼土地改良区が管理している。



ホリアゲタ様式図

ホリアゲタ（掘り上げ田）は、岸から縦に細長い溝（クリーク）を掘り、掘った際に生じた泥土を溝と溝の間に積み上げて水面より上に地面を作り、そこを田にするという農法。干拓や埋め立てが困難な沼地で田を作り、さらに溝により水路を確保するための独特の農法である。主に稲作に使われた。沼の水路に堰を作り、周辺水田からの排水を貯めて、それを流し入れることで水位を調整した。耕作には舟が不可欠であり、農業機械化が推進される時代の波に逆らえず、失われることとなった。高度成長期には、近藤沼は北関東で唯一ホリアゲタが残る場所となっていた。地元の一部ではホリアゲタの溝を「キロコボリ」といった。「キロコ」とは旧館林藩史の木呂子退蔵に由来し、木呂子が明治維新後にこの辺りに住んで、ホリアゲタ農法を伝えたことから溝を「キロコボリ」と呼ぶようになったという伝承がある。



木呂子退蔵の墓（円教寺）

（参考）

木呂子退蔵（1827～1900）…代々秋元家に仕える家の出身。幕末には館林藩内の勤王派として盛んに藩政への働きかけを行っており、断髪党と呼ばれる館林藩内勤王派に属した。戊辰戦争では館林藩の軍監（部隊指揮官）となり、兵を率いて各地を転戦した。戦後には近藤付近に住み、戦友を祀る招魂祠（後に代官町長良神社南に移転）を守った。明治13年（1880）には自由民権運動の請願に努め、群馬県民代表として活動を行った。明治23年に初めて国会が開かれた際には立候補を目指したが、土地制度の改正で資格を失い、出馬することは叶わなかった。明治33年に没し、その墓は円教寺（館林市朝日町）にある。